

■【トピックス】

ダブル・スタンダード



このところ中国の海洋進出が問題を起こしています。領有権を一方的に主張して、原油の掘削を始めようとしてベトナムと対立し紛争になりかけたりしています。このような動きに対してベトナム国内では反中デモが激化して被害が発生しています。

これにして中国はベトナムを非難しています。しかし、尖閣問題で反日デモが発生して日系企業に被害が出た時には日本を非難していました。自国が常に正しいという態度は大国の態度ではありませんね。

■【ビジネス・アイ】

正しい決算！

社長 「今年の決算は、決算日の直前に顧問税理士のところの担当者が急に辞めて大変だったよ。キチンとした引継もなかったみたいでうちの方も迷惑したよ」

花野 「そうですね。1年に1回の決算は、会社にとって1年間の成績を計るための重要な手続きですからね。たとえ会計事務所の担当者が替わろうと、御社の担当者が替わろうと正しく行われる必要がありますね」

社長 「そのとおりだね。うちの場合、税理士の先生のところにお任せだったから反省しているよ。これからは自社で出来ること、やるべきことは自社でやって、何を外部の専門家に任せるか、その区分けをしっかりとるようにするよ」

花野 「それがいいですね。決算の作業自体は定型化してしまえば、それほど難しいものではありませんから、キチンとした仕組みとマニュアルを作ってしまうと、たとえ担当者が引継なしに替わっても作業自体はできると思いますよ」

社長 「そうだよね。決算でも人に依存しない仕組みづくりが大切だね。私自身、経理は苦手な税理士事務所や経理の担当者にお任せだったからね。今回のことを教訓に決算も他の業務と同じようにキチンとした仕組みを作ることにするよ。それについては花野さんアドバイスをよろしく頼むね」

花野 「もちろんです！」

■【今月のキーワード】

決算

通常決算とは、1年間の損益を確定し、期末日現在の残高を確定することをいいます。そのための手続きとして在庫の棚卸や、減価償却費の計上、税金の計算などがあります。

しかし、決算の時に一番大事なことは、決算に特有なことではありません。1年間の取引が正しく行われていたことを確認する作業です。

その際、重要になるのが、本来あるべき金額である「正当な残高」という考え方です。これがない決算は単なる数字合わせになってしまいます。

■【今月の1冊】

『社長が知らない 秘密の仕組み』

橋本 陽輔 著

ビジネス社 ¥1400

テレビのコマーシャルでよく見る「やずや」ですが、その顧客管理の秘密が明かされています。顧客ポートフォリオ・マネジメント理論です。

顧客を5つの属性に分けて管理していくのですが、キーになるのは時間です。在籍期間と離脱期間という概念で顧客の属性分けをしています。これまでの顧客分析手法より一つ上をいく実践的な理論です。



■【編集後記】

この3月決算は、いろいろ「想定外」のことが起こりました。「想定外」という言葉自体使わないようにしているのですが、世の中には考えもつかないことが起きるものですね。しかし、それも全て元は人が原因です。まだまだ人間理解が足りませんね。

『経営のセカンド・オピニオン』vol. 87（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2014.6.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>